

へ参り来てよこれのお庭を見申せば 黄金小砂をそよとふかせてそよとふかせて

この間太鼓を打っては両手と頭を左右交互に大きく振る。次に、太鼓を連打しながら頭を小さきぎみに振る。続いて立って二首目の歌になる。

へ参り来てよこれの御本社見申せば 黄金金ぶち花で輝く花で輝く

この間太鼓を打っては左右交互に片足を上げ、両手は足と反対の方向に上げる。次に、太鼓を連打しながら頭を小さきぎみに振る。三匹一緒に左と右に移動してもどり、腰をやや下げて両手を広げ、その場で一回りする。次に前に進み出では寄って向きあい、太鼓を打って足を蹴り、もどって両手を広げてまわる。

⑤ 「雌獅子うばい」である。三匹が横に並び、両手を振りながら三回前進してはもどる。次に、太郎と次郎が向きあって争うように舞う。ついに次郎が倒れて両手両膝をつく。太郎はその後に立って両手を広げ、次郎を襲うかのような振りで舞う。次郎は立ち上がって太郎に近づくが、追われて一匹離れて舞う。このあと、三匹が寄って向きあい、足を交互に蹴って舞ってから、太郎、雌獅子、次郎の順で一列になり、内側と外側を交互に向きながら舞庭をいまわりして、元の位置にもどって正面を向いて終わる。

最後に、境内の端に行つて大滝根山頂の通称、「権現様」を拝する。

神社以外で舞う時の歌詞

へ奥山の紅葉ふみ分け鳴く鹿の 声聞く時ぞ秋は悲しき

へ春は花夏はたちばな秋は菊 いつも絶えせぬ裏の花山裏の花山

由来と沿革……伝来については明らかではないが、獅子太鼓に寛政元年（一七八九）とある。舞の形態か